



roundabout

Ver.2

ユーザマニュアル

移行ガイド

第4版

最終更新日 2011/9/30

目次

第 1 章	はじめに.....	5
1-1	ラウンドアバウト 2 へ移行する際に影響がある変更点.....	5
(1)	共通機能.....	5
(2)	言語変換.....	5
(3)	画像変換.....	6
第 2 章	環境の変更.....	7
2-1	モジュールの入れ替え.....	7
2-2	端末情報配信サーバの変更・端末情報ファイルの変更に伴う設定変更.....	7
(1)	ファイアウォールの設定変更.....	7
(2)	端末情報更新クライアントの設定変更.....	7
(3)	ラウンドアバウトの変更.....	8
2-3	CSS 変換シートリクエストを許可する.....	8
2-4	キャッシュディレクトリの削除.....	8
2-5	画像キャッシュの探し方.....	8
2-6	端末情報更新時のログ出力先の変更.....	9
第 3 章	設定ファイルの変更.....	11
3-1	Apache で行うラウンドアバウト設定の変更.....	11
(1)	画像変換の基準幅の設定.....	11
(2)	画像変換の刻み幅の変更.....	11
(3)	画像変換パラメータの改ざんチェックの設定.....	11
(4)	端末情報ヘッダの変更.....	12
3-2	デバイスグループの追加・変更.....	13
(1)	出荷時に定義されている端末グループ名が重複している場合.....	13

(2)	非推奨となった端末情報を参照してグループ定義している場合	13
3-3	非対応端末ファイルの変更	14
3-4	変換シートの変更	14
3-5	絵文字変換シートの変更	14
第 4 章	コンテンツへの影響と変更	15
4-1	XHTML の Content-Type の変更	15
4-2	CSS 背景画像の画像変換	15
4-3	一部 au 向け CSS の展開	15
4-4	i モードブラウザ 1.0 向け、一部タイプセクタ展開	15
4-5	i モードブラウザ 1.0 向け複数 CSS ファイル展開	16
4-6	表示コントロール(PI)の修正	16
4-7	SoftBank の画像転送禁止処理の変更	17

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第 1 版	2011 年 7 月 8 日	・初版発行
第 2 版	2011 年 7 月 12 日	・SoftBank の HTML サイズオーバー対策について追記(4 章 8 項)
第 3 版	2011 年 9 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ラウンドアバウト 2.1 への対応 ・「開発ガイド」の名称を「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」に変更 ・SoftBank の HTML サイズオーバー対策機能を無効化する設定について記述(4 章 8 項)
第 4 版	2011 年 9 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・CSS 背景画像の無変換指示プロパティの誤表記を修正(<code>--roundabout-convert</code> を <code>-roundabout-convert</code> に修正)(4 章 2 項) ・SoftBank の HTML サイズオーバー対策機能を無効化する設定は、ラウンドアバウト 2.1 で使用可能な旨の注釈を追加(4 章 8 項)

第1章 はじめに

本書は、ラウンドアバウト 1.2 以上を利用していたユーザーがラウンドアバウト 2 へアップデートするための移行ガイドです。ラウンドアバウト 2 を初めてお使いになる場合には、このガイドを読む必要はありません。初めてラウンドアバウトを利用する方は、別紙「ラウンドアバウト 2 スタートガイド」、「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」をお読みいただくと開発がスムーズに始められます。

本書ではラウンドアバウト 2 へアップデートする際に必要な環境・設定の変更、ラウンドアバウト 1 との動作の違いやコンテンツへの影響、コンテンツを修正する必要がある条件について解説します。ラウンドアバウト 1 と互換性の無い機能に関しては、この章の 1 項に記してありますので、内容を確認して移行可能な場合のみ移行するようにしてください。

- ※ 文中には、Apache の設定に係わる記載がありますが、こちらについての詳細は、別紙「Apache 設定リファレンス」で解説されていますので、そちらを参照ください
- ※ 全ての設定例はラウンドアバウトのデフォルトの設定値に基づいています。インストールディレクトリや設定ファイルパスを変更した場合は、お使いの環境にあった値に変えてください
- ※ 作業は Apache を停止し、root で行ってください

1-1 ラウンドアバウト 2 へ移行する際に影響がある変更点

ラウンドアバウト 2 ではラウンドアバウト 1 から多くの機能拡張が行われましたが、その中でもラウンドアバウト 1 で利用していた環境・設定・コンテンツに影響がある項目は以下になります。ラウンドアバウト 2 にアップデートする場合は、これらの個所に注意して影響度を確認の上行ってください。その他変更点に関してはリリースノートを参照ください。

※見出しに★が付いている変更は、ラウンドアバウト 1 と完全に互換性が無い(ラウンドアバウト 1 と同じ動作結果にさせることができない)変更点です。

(1) 共通機能

- ・ ★端末情報配信サーバの IP アドレス・URL 変更(2 章 2 項参照)
 - ・ ★キャッシュディレクトリ構成の変更(2 章 4、5 項参照)
 - ・ 画像変換パラメータの改竄チェック機能(3 章 1 項(3)参照)
-

(2) 言語変換

- ・ CSS 変換シート(2 章 3 項参照)
- ・ ベースコンテンツの横幅指定(3 章 1 項(1)参照)
- ・ 画像変換刻み値の指定方法変更(3 章 1 項(2)参照)
- ・ 端末情報ヘッダの変更(3 章 1 項(4)、4 章 6 項参照)
- ・ 非対応端末設定の拡張(3 章 2、3 項参照)
- ・ ★背景画像の画像変換(4 章 2 項参照)
- ・ ★一部 au 向け CSS の展開(4 章 3 項参照)
- ・ ★i モードブラウザ 1.0 向け、一部タイプセクタ展開(4 章 4 項参照)
- ・ i モードブラウザ 1.0 向け複数 CSS ファイル展開(4 章 5 項参照)
- ・ ★i モードブラウザ 1.0 以外の Content-Type の変更(4 章 1 項参照)
- ・ SoftBank の HTML サイズオーバー対策(4 章 8 項参照)

(3) 画像変換

- ・ ★SoftBank の画像転送禁止処理の変更(4 章 7 項参照)

第2章 環境の変更

この章では、ラウンドアバウト2のインストール、ラウンドアバウト2で端末情報配信を行う、CSS 変換シートを利用するために必要な変更や、ラウンドアバウトで使用する画像キャッシュディレクトリの仕様変更に伴う削除作業を解説します。

2-1 モジュールの入れ替え

ラウンドアバウト2でもモジュールの構成は変わりません。mod_ralc.so と mod_raic.so を Apache の modules ディレクトリ以下に配置するだけでモジュールの入れ替えは完了となります。

※モジュールを入れ替えた後は端末情報をラウンドアバウト2専用のファイルに変更しない限り起動しないので注意してください

2-2 端末情報配信サーバの変更・端末情報ファイルの変更に伴う設定変更

(1) ファイアウォールの設定変更

ラウンドアバウト2用の端末情報を配信するサーバのIPアドレスはラウンドアバウト1用の配信サーバIPアドレスとは異なります。Push 型、Pull 型のどちらの場合も配信される/取得するサーバのIPアドレスは「118.151.160.223」になります。Push 型の場合は、このIPアドレスからのアクセスを許可するように、Pull 型の場合はこのIPアドレスへのアクセスを許可するようにご利用のネットワーク機器の変更をしてください。以前の配信サーバIPアドレスからは配信されませんので、以前のアクセス許可設定を削除してください。

Pull 型ではダウンロード先も変更されて、以下のURLになります。

<http://terminfo2.roundabout.symmetric.jp/download/xxxxxxx/terminfo2.csv>

(2) 端末情報更新クライアントの設定変更

ラウンドアバウト2用の端末情報更新クライアントに関しては、シェルスクリプトや cgi はラウンドアバウト1のものとは変わりませんが、配信サーバが変更される事と、端末情報ファイルの構成・ファイル名が変更される事から、設定ファイルの内容を変更する必要があります。Push 型の場合は「servers.conf」の設定値中の端末情報ファイル名を「terminfo2.csv」に変更します。また、Pull 型の場合は「download.conf」の設定値「terminfo_url」を 2-2(1)記載のURLに変更します。また、ラウンドアバウト1用の端末情報ファイルや、そのバックアップファイルは使用できなくなりますので、削除してください。

バックアップファイル削除コマンド例:

```
rm -f /var/roundabout/update/backup/*
```

(3) ラウンドアバウトの変更

(2)で変更したように、ラウンドアバウト 2 での端末情報ファイル名は「terminfo2.csv」となります。そのため Apache のラウンドアバウト設定ファイル(/usr/local/apache2/roundabout/roundabout.conf)で指定されている RALCTerminfoFile の値も書き換える必要があります。

roundabout.conf 設定変更例:

```
RALCTerminfoFile /var/roundabout/conf/terminfo2.csv
```

2-3 CSS 変換シートリクエストを許可する

CSS 変換シートは css ファイルパス+csv の形式でラウンドアバウトからリクエストされます。

/css/style.css の場合の CSS 変換シート例:

```
/css/style.css.csv
```

beyond の場合は CSS 変換シートを使わない場合でも、ファイアーウォールなどでこのリクエストがブロックされた場合にラウンドアバウトのパフォーマンスが著しく低下する恐れがあります。必ず許可するよう to してください。

CSS 変換を使用する場合は、Apache の設定などで拡張子 csv に対してのリクエストを拒否していたり、別のプログラムが起動するようになっていたりすると CSS 変換シートが動かないので、上記例のようなリクエストが正しく動くように設定を変更するようにしてください。

CSS 変換シートは beyond で利用する場合は、CSS ファイルと同じく RALCCssCacheRefreshTime で指定した時間(秒)の間はラウンドアバウトがキャッシュディレクトリ内にキャッシュし、その間はコンテンツサーバには取りに行きません。開発時はこの設定値を少なくし、逆に本番運用時はこの値を大きくすることをお勧めします。

2-4 キャッシュディレクトリの削除

ラウンドアバウト 2 からはキャッシュディレクトリ(/var/roundabout/cache/以下)の構造が変わりました。そのため、以前のキャッシュディレクトリ・キャッシュデータは参照されなくなります。以前のキャッシュが残っているとディスクを圧迫する恐れがあるので、キャッシュディレクトリは一度削除してください。

キャッシュディレクトリ削除コマンド例:

```
rm -Rf /var/roundabout/cache/*
```

2-5 画像キャッシュの探し方

本章 4 項で解説した通り、ラウンドアバウト 2 からはキャッシュディレクトリの構成が変わりました。ラウンドアバウト 1 では `/var/roundabout/cache/${画像ファイルへの絶対パス}`(beyond 時は `/var/roundabout/cache/${リモートホスト名}/${画像ファイルの URL}`) という構成でしたが、ラウンドアバウト 2 からは以下の様に変更されます。

`/var/roundabout/cache/${画像ファイルへの絶対パスを 2 文字毎に区切ったディレクトリ階層}/${画像ファイル名}/`

ディレクトリ階層が細かくなり、以前のように該当画像のキャッシュディレクトリに移動しにくくなりました。画像ファイル名から該当キャッシュディレクトリパスを検索するには `find` コマンドで検索することができます。

```
find /var/roundabout/cache -type d -name "${画像ファイル名}"
```

※画像変換ロックファイルの削除に関しては、運用マニュアルに記載されているコマンドがそのまま使用可能です

2-6 端末情報更新時のログ出力先の変更

ラウンドアバウト 1 では、端末情報更新時のログの一部が、端末情報更新ハンドラを設定した VirtualHost で指定された `error_log` とメインサーバの `error_log` とに分かれて出力されていました。

※端末情報更新ハンドラを設定した VirtualHost に `ErrorLog` ディレクティブを設定していない場合は、メインサーバの `error_log` に出力されますので、この項は関係ありません

出力例:

- VirtualHost `error_log`

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: terminfo reload start
```

```
[Wed Mar 23 10:00:20 2011] [notice] ralc: terminfo reload end
```

- メインサーバ `error_log`

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: system defined device: 1016
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: user defined device: 0
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: invalid device: 0
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: total defined device: 1016
```

ラウンドアバウト 2 からは、これらのログは全てメインサーバの `error_log` に出力されるようになります。

出力例:

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: terminfo reload start
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: system defined device: 1016
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: user defined device: 0
```

```
[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: invalid device: 0
```

[Wed Mar 23 10:00:18 2011] [notice] ralc: total defined device: 1016

[Wed Mar 23 10:00:20 2011] [notice] ralc: terminfo reload end

端末情報更新時に VirtualHost のログを監視している場合は、監視するログを変更する必要となります。

第3章 設定ファイルの変更

3-1 Apache で行うラウンドアバウト設定の変更

(1) 画像変換の基準幅の設定

ラウンドアバウト 1 では RALCImageScale で指定した変換比率が 1.000 の設定値(デフォルトでは 480 ~)が基準幅としてみなされいましたが、ラウンドアバウト 2 からは、この値を明示的に指定できるようになりました。次の画像変換の刻み幅の変更とあわせて、ラウンドアバウト 2 からはより容易にサイトの基準幅や刻み幅を変更できるようになります。

基準幅設定例:

RALCBaseWidth 480

※ラウンドアバウト 1 との互換のため、RALCImageScale ディレクティブは残っています

※刻み幅とあわせて次に説明する RALCImageScaleList を利用するようにし、RALCImageScale は削除してください

(2) 画像変換の刻み幅の変更

ラウンドアバウト 1 では RALCImageScale を複数設定して指定していた画像変換の刻み幅が、より容易に設定できるようになります。ラウンドアバウト 1 では幅の開始と終了を隙間なく指定する必要がありましたが、ラウンドアバウト 2 からは刻み幅の開始だけをカンマ区切りで指定するだけで同じ設定が可能です。この新しい指定方法は、RALCBaseWidth の設定が必須となります。

刻み幅設定例:

RALCBaseWidth 480

RALCImageScaleList 225,228,230,232,234,240,314,320,360,468,480

この設定は、ラウンドアバウト 1 の以下の設定と同じになります

RALCImageScale 1-224 0.469

RALCImageScale 225-227 0.469

RALCImageScale 228-229 0.475

....

RALCImageScale 480-9999 1.000

(3) 画像変換パラメータの改ざんチェックの設定

ラウンドアバウト 2 では、画像変換パラメータを操作して不要なキャッシュを大量に作成するなど外部か

らの攻撃を防ぐため、本当にラウンドアバウトが付与したパラメータかどうかを判断するため機能が実装されました。これは言語変換モジュール(ralc)が付与した変換パラメータのハッシュ値を画像変換モジュールに(raic)に渡すことで防ぐ仕様となっています。この設定を有効にするには以下のディレクティブを言語変換・画像変換モジュールそれぞれに設定します。

ralc の設定例:

```
RALCRAICParamHash _h xxxxxxxx
```

raic の設定例:

```
RAICParamHash _h xxxxxxxx
```

上記の設定例では、各画像リンクに_hというパラメータが付与されます。また、第2引数にはハッシュ値を計算する際のシードを指定しますので、ralc と raic で必ず共通の文字列を指定してください。

また、ラウンドアバウト1でアプリケーションから画像変換パラメータを直接指定して画像変換を行っている場合は、上記の設定をすると動作しなくなってしまいます。特定のURLだけraicでパラメータによる改ざんチェックを行わせたくない場合は、raicで以下のように設定します。

/apl/image 以下だけは改ざんチェックをさせない設定例:

```
RAICParamHash _h xxxxxxxx
```

```
<Location /apl/image>
```

```
RAICParamHash _h
```

```
</Location>
```

特定のURLだけ第2引数を指定しない設定で上書きすることで、改ざんチェックを行わせないようにすることができます。

(4) 端末情報ヘッダの変更

ラウンドアバウト2では端末情報ファイルの項目が追加になり、またいくつかの項目が非推奨となりました。そのため、送信する端末情報ヘッダを追加・削除する必要があります。現在使用しているterminfo-headers.confをラウンドアバウト2.0に付属のterminfo-headers.confで上書きします。非推奨となったため、削除されるヘッダは以下になります。

リクエストヘッダ名	ラウンドアバウト2で参照する場合
X-RA-Css-Support	廃止
X-RA-Style-Support	廃止
X-RA-Jpeg-Support	廃止
X-RA-Gif-Support	廃止
X-RA-Png-Support	廃止
X-RA-Xhtml-Version	X-RA-Browser-Version
X-RA-3gp-Support	X-RA-User-Extension

X-RA-Wmv-Support	X-RA-User-Extension
X-RA-Amc-Support	廃止
X-RA-Asf-Support	X-RA-User-Extension
X-RA-Gps-Support	X-RA-User-Extension
X-RA-Table-Support	X-RA-User-Extension

※これらのヘッダはラウンドアバウト 2 では互換のため使用することができますが、将来にわたって保証するものではありません。早めの移行をお願いします

※X-RA-User-Extension の詳細については、「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」を参照してください

3-2 デバイスグループの追加・変更

ラウンドアバウト 2 では、よりコンテンツを作りやすくするため、RALCDeviceGroupFile で指定されている device-group.conf にデフォルトで多くの端末グループを定義してあります。ラウンドアバウト 2 の機能をより使いやすするために、ご利用の環境の device-group.conf に出荷時の設定を追加することをお勧めします。

※設定ファイルの書式はラウンドアバウト 1 と同じです

(1) 出荷時に定義されている端末グループ名が重複している場合

万が一出荷時の端末グループ名がお客様で追加した端末グループと重複する場合は、出荷時に設定されている端末グループ名を変更してご利用ください。その際、他のグループ定義でも使用されている可能性がありますので、全てのグループ定義の参照を変更する必要があります。

DGFOMA1 という名前を RADGFOMA1 変更する場合の例：

```
RADGFOMA1{
  <?ra g="ra.foma1x"?>
}
USDCM {
  <?ra g="DGPDC1"?>
  <?ra g="DGPDC2"?>
  <?ra g="RADGFOMA1"?>
}
```

(2) 非推奨となった端末情報を参照してグループ定義している場合

4 章 4 項の表示コントロール(PI)を参考に、ラウンドアバウト 2 で使用可能な項目へ変更します。

3-3 非対応端末ファイルの変更

ラウンドアバウト2では、非対応端末を容易にメンテナンスできるように、デバイスID、キャリア以外に3-2でも解説しているデバイスグループを指定することができるようになりました。従来では、非対応にする条件によっては新機種が出るたびにこのファイルをメンテナンスする必要がありましたが、非対応にする条件で事前にデバイスグループを作っておき、それを非対応端末ファイルで指定することで都度メンテナンスする必要がなくなります。初期出荷の設定では、以下のグループが指定されています。

@USDCM(docomo2G、FOMA902 シリーズ未満)

@USSBM(旧 Vodafone 機種)

@USKDDI(au キャッシュサイズ 100KB 未満)

@OTHER3G(willcom、emobile)

@USSHORTBRW(ブラウザ幅 200 未満)

ラウンドアバウト1では画面幅が非 QVGA 端末(画面幅 120px 前後)だけが非対応機種でしたが、ラウンドアバウト2からは上記機種群も非対応としています。これらに対応端末に含めたい場合は、適宜編集してください。

3-4 変換シートの変更

ラウンドアバウト2では端末情報から SoftBank の PDC 機種が削除されており、それに伴い変換シート(conversion.csv)の列「sbp」、「sbc」の2つが削除されています。そのため、変換シートからもこの2列を削除してください。

変換シートをカスタマイズしていない場合は、出荷時の変換シートで置き換えてください。独自で作成した変換シートを利用している場合は、上記の2列を削除してください。

3-5 絵文字変換シートの変更

変換シートと同じく絵文字変換シート(glyph-conversion.csv)からも「sbp」、「sbc」の2列が削除されています。また、ラウンドアバウト2からは絵文字変換シートは docomo 絵文字を記述した場合の変換ルールのみとなりました。もし、au・SoftBank ベースの絵文字変換ルールで記述されているサイトであれば、絵文字の記述方法を変更してください。

第4章 コンテンツへの影響と変更

ここではコンテンツの修正が必要になりそうなラウンドアバウトの機能について解説します。

4-1 XHTML の Content-Type の変更

ラウンドアバウト 1 では、HTML の先頭行が XML 宣言の場合はレスポンスヘッダ「Content-Type」を「application/xhtml+xml」に変換していました。ラウンドアバウト 2 からは、i モードブラウザ 1.0 端末(ラウンドアバウトの端末グループ ra:foma2x、ra:foma1x)のみこの変換を行うようになります。基本的にコンテンツの修正は不要です。

4-2 CSS 背景画像の画像変換

ラウンドアバウト 1 では、CSS で指定された背景画像は、汎用クラスセレクタか汎用 ID セレクタで記述された背景画像だけを変換していました。ラウンドアバウト 2 からはデフォルトで全てのセレクタで指定されている画像に対して変換を行うようになります。そのため、従来は変換されていなかった画像も変換されるようになるので、コンテンツによっては見え方が変わってしまう恐れがあります。画像変換されても問題ないようにコンテンツを修正するか、変換させたくない場合は、背景画像を含んだセレクタに「-roundabout-convert: no」というプロパティを指定してください。

4-3 一部 au 向け CSS の展開

ラウンドアバウト 2 では au のブラウザバージョンが 7 未満の機種には、link 要素で指定された CSS ファイルを全て style 要素で展開するように動作が変更されています。style 要素への展開は head 要素の末尾にされます。展開された CSS ファイルがあった link 要素は削除されます。

CSS ファイルが展開されるため、XHTML のファイルサイズが増えてしまいますので、au のキャッシュサイズ付近(100KB 前後)でコンテンツを作成している場合は、上限を超えてしまう恐れがあります。必ず確認してください。

4-4 i モードブラウザ 1.0 向け、一部タイプセレクタ展開

ラウンドアバウト 1 では i モードブラウザ 1.0 向けの CSS ファイル展開の際に、body に対するタイプセレクタのみ対応していましたが、ラウンドアバウト 2 では th、td、li に対するタイプセレクタも展開されるようになります。th、td、li タグを使用している個所を確認し、必要に応じてコンテンツの修正をしてください。

※th、td、li に有効な CSS プロパティに関しては、docomo の公式資料を参照してください

作ろう i モード XHTML

<http://www.nttdocomo.co.jp/service/imode/make/content/browser/xhtml/index.html>

4-5 i モードブラウザ 1.0 向け複数 CSS ファイル展開

ラウンドアバウト1では、XHTML中のlink要素で指定されたCSSファイル1つだけを読み込み、XHTMLに展開した後は、2つ目以降のlink要素は削除していました。ラウンドアバウト2では、記述されたすべてのlink要素で指定されたCSSファイルを読み込み、全てを展開するように機能が拡張されました。そのため、従来展開されていなかった2つ目以降に記述したセレクタが適応されたりし、デザインが変わってしまう恐れがあります。デザインが変わってしまった場合はコンテンツを修正し、全てのセレクタが適応された状態で正しく見えるように変更してください。

従来と同じように1つのCSSファイルだけを展開するには、roundabout.confで「RALCSingleCssMode On」を指定するか、2つ目以降のCSSを表示しないように表示コントロールを使ってiモードブラウザ1.0向けの出し分けを記述する必要があります。

roundabout.confの設定例:

```
<IfModule mod_ralc.c>
    RALCLicenseFile /var/roundabout/conf/roundabout.lic
    RALCTerminfoFile /var/roundabout/conf/terminfo2.csv
    ...
    RALCAutoReload Off
    RALCSingleCssMode On
</IfModule>
```

この設定は、iモードブラウザ1.0向け複数CSS展開、CSS変換、au向け展開処理に適用されます

4-6 表示コントロール(PI)の修正

ラウンドアバウト2では、端末情報の項目で非推奨となった項目があるため、その項目を利用して表示コントロールを記述しているコンテンツは修正する必要があります。具体的には以下の表の項目になります。

端末情報項目	略記	ラウンドアバウト2以降で同じ表現をする表示コントロール
Css-Support	Css	廃止
Style-Support	Sty	廃止
Jpeg-Support	Jpg	廃止
Gif-Support	Gif	廃止
Png-Support	Png	廃止

Xhtml-Version	無し	新項目 Browser-Version を参照する
3gp-Support	3gp	<?ra ue.1="8-9 A B C D E F"??>
Wmv-Support	Wmv	<?ra ue.1="2-3 6-7 A B E F"??>
Amc-Support	Amc	廃止
Asf-Support	Asf	<?ra ue.1="1 3 5 7 9 B D F"??>
Gps-Support	Gpf	<?ra ue.5="1"??>
Table-Support	Tbl	<?ra ue.4="1"??>

※これらの端末情報項目はラウンドアバウト 2 でも互換のため使用することができますが、将来にわたって保証するものではありません。早めの移行をお願いします

※端末情報ヘッダも上記の項目が参照できなくなります

※上記表示コントロールの例は、サポート状況が真(サポートしている)時の例です

4-7 SoftBank の画像転送禁止処理の変更

ラウンドアバウト 1 では SoftBank 携帯端末向けの転送禁止制御を、レスポンスヘッダ

「x-jphone-copyright: no-transfer」を付与する事で実現していました。ラウンドアバウト 2 ではレスポンスヘッダで制御する方式から、Forward Lock 方式で DRM Message に変換して制御するように仕様変更されました。携帯実機で確認する場合は見た目には影響はありませんが、シミュレータなどで確認する場合は使用するシミュレータが DRM Message に対応していない場合、転送禁止情報が入った画像を見ることができなくなります。

※Forward Lock の詳細については、SoftBank の公式資料を参照してください

Mobile Creation

http://creation.mb.softbank.jp/web/web_doc.html HTTP 編

4-8 SoftBank の HTML サイズオーバー対策機能の追加

ラウンドアバウト 2 では新しく SoftBank 携帯端末向けの HTML サイズオーバーに対する回避機能が追加されました。これは SoftBank 端末では HTML のファイルサイズが 48KB 以上になると、ゲートウェイでエラーを表示してしまい、本来のコンテンツが見えなくなってしまう事への対策です。

ラウンドアバウトでは、HTML サイズが 48KB 以上になると判断した時に、48KB 以降の HTML コンテンツを削除し、代わりに「…」という文字列を埋め込みます。

※実際には途中のゲートウェイがコンテンツを変更してしまい、コンテンツのサイズがサーバで計算するよりも大きくなってしまふ場合があるので、48KB 丁度ではなく、45.6KB で削除します

※この機能は RALCHtmlSizeAdjust ディレクティブにより無効にすることができます。詳しくは「Apache 設定リファレンス」を参照してください(ラウンドアバウト 2.1 以上で設定可能)